

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・**実施結果**）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力及び課題発見解決力の育成を目指した授業改善に取り組む。	①生徒の学習習慣の定着及び基礎学力の向上を図る。組織的な授業改善の充実を図り、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	①授業や課題を通して、生徒に学習習慣を定着させる。教科を主体とし、教科横断の視点も持ちながら、互いの授業見学等を行うことにより、基礎学力の向上や、思考力・判断力・表現力の育成を達成できる授業づくりを追求する。	①生徒による授業評価の、各設問の回答の平均値が4段階で3.25を上回った割合が80%以上になったか。	①全教科の各設問の、回答の平均値について、3.25を超えていないものは7個のうち、1個で3.23であった。なお、学力向上進学重点校の指標とされている設問「単元の学習の中で、議題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある」は3.32で一番高かった。	①思考力・判断力・表現力の育成を掲げ、スピーディーな授業展開を心がけているが、基礎学力が定着していない生徒もいる。実力アップ講習等を活用し、生徒が基礎学力を定着、向上させ、よりよい思考力・判断力・表現力の育成につなげられるような取り組みを、継続して検討していかなければならぬ。	①課題・改善方策等が以前より具体的になっていく。今後もレーダーチャートを活用してほしい。一方で、基礎学力の資質や能力をどのように捉えているか。更なる思考力・判断力・表現力の育成に期待したい。	①思考力・判断力・表現力の育成を掲げ、授業改善に取り組んできた。授業評価の結果では、一定の評価を得たと判断できる。一方で、基礎学力が定着していない生徒も見受けられる。これらの生徒には、学年、教科で連携し、必要に応じて実力アップ講習などにより対応していく必要がある。	①入学てくる生徒が多様であることから、授業改善の進め方も毎年より良い方向への変化を求めるながら進めていきたい。また、基礎学力が定着していない生徒には、学年、教科で連携し、必要に応じて実力アップ講習などにより対応していく必要がある。
		②生徒が主体となって課題を解決し、自律自走する学校行事運営や生徒会活動ができるよう、適切に支援する。	②生徒会や各委員会の自主性を尊重しつつも緊密に連携を共有し、全教員が見守りながら、活動支援グループを中心に、適時適切な支援を行う。	②学校評価アンケートの学校行事等において「主体的に取り組むことができたか」等の項目において、肯定評価80%以上を達成できたか。	②生徒の自主性を尊重しながら、適時連携を共有して活動を支援した。その結果、学校評価アンケートの当該項目において90%を超える肯定評価を得た。	②引き続き生徒主体で充実した学校行事運営や生徒会活動がなされるよう、組織的・計画的な支援を続けていく。	②生徒主体の学校行事が運営されており、体育祭や文化祭が教員が見えない運営となっている。引き続き継続してほしい。	②学校行事や生徒会活動において、生徒の自主性を尊重した支援を行うことができた。	②引き続き、生徒が課題を見出し、主体的・組織的に学校行事運営や生徒会活動が行えるよう、支援体制を継承していく。	②引き続き、生徒が課題を見出し、主体的・組織的に学校行事運営や生徒会活動が行えるよう、支援体制を継承していく。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①学校行事や部活動の運営を通し、他者と協働して物事に取り組む態度の涵養を図る。	①部活動および学校行事の企画運営において、生徒自らルールやマナーについて考え、他者と協働しながら取り組む態度を育てる。	①活動目標や活動上の留意点などをこまめに指導しながら、目標達成に向けた支援をめざす。	①学校評価アンケート等の学校行事・部活動の取組状況や満足度で肯定評価80%以上を達成できたか。	①行事担当及び各学年、部活動顧問の要所を押された指導の結果、学校評価アンケートにおいて、学校行事の充実、部活動の充実で、それぞれ95%、90%を超える肯定評価を得られた。	①高い進路実現のための学習活動を大事にしながらも、部活動や学校行事を通して、他者と協働しながら参画し、人間的な成長を図れるよう、緩急をつけて支援していく。	①他者と協働することは人権教育につながっていく。アンケート結果も非常に高い数字になっている。引き続き支援してほしい。	①学校行事・部活動について、他者と協働しながら参画する経験を通して、学校生活アンケートで高い満足が得られる支援を行うことができた。	①高い進路実現のための学習活動と並行して、学校行事や部活動が人間的成长を図る機会となるよう、引き続き緩急をつけた支援を行っていく。
		②教育相談体制の一層の充実を図り、生徒一人ひとりの心身の成長を支援する。	②各学年の職員、SC、SSWが一体となって支援にあたることができるよう組織的な相談体制を整える。	②各学年の係として教育相談担当を設置する。SSWが対応可能な事案を職員へ周知し、より積極的な活用を目指す。	②学校評価アンケートの教育相談等に関する項目について、肯定評価80%以上を達成できたか。また、SSWと効果的に連携することができたか。	②「学校生活を充実させるための様々な支援体制があった」、「SC、SSWに相談しやすい体制であった」という項目の肯定的評価はそれぞれ80%、55%であった。教育相談担当とも連携し、SSWの利用を増やすことができた。	②アンケートのSC、SSWについての項目は、28%が未回答であったが、その要因として利用したことがない生徒が回答しなかったと考えられる。より気軽に相談することができるよう、積極的に働きかけていく。	②丁寧に担任が生徒を見ていることがわかる。SC、SSWの未回答率が高いのは、使っていない、わからないという生徒も多いのではないか。気軽に相談しやすい体制づくりを心掛けてほしい。	②サポートドックの結果を活用し、昨年度に比べ、SC、SSWとスムーズに連携し、相談につなげることができた。一方で、SC、SSWを利用したことがない生徒への働きかけを強化する必要がある。	②SC、SSWの来校日の周知をより積極的に行うとともに、より気軽に相談できるよう予約方法等も含めて検討していく。また、引き続きSSWが対応可能な事案を共有し、SSWへの相談を充実させていく。
3	進路指導・支援	①高い進路希望実現に向け、生徒がグローバルな視点を持って将来を設計できるよう、また、自らのキャリア発達を意識できるよう、	①生徒の高い進路希望の実現を目指すため、進路指導の充実を図る。	①3年間を見通した「進路指導プログラム」に確實に取り組む。また、新学習指導要領による大学入試の変更点について情報を収集し、生徒、保護者、教職員への周知を図	①生徒及び保護者の面談、出願指導検討会及び進路説明会が有効であったか。大学入学共通テスト得点状況、難関大学合格者数20名以上、国公立大学合格率40%以上を達成でき	①進路指導への肯定評価は83.7%であった。難関国公立大現役合格者は20名(昨年16名)。国公立大学合格者は113名(昨年114名)で、合格率は36.5%であった。保	①出願指導検討会に終わる範囲を広げ、学校全体として適切なアドバイスを行うよう改善する。また、次年度へは、今年度の合否結果を加えた資料を作成し、4月に59期担任、	①高い次元で達成していることがうかがえる。新教育課程の影響が出て見受けられるので、授業内でも伝達してほしい。また、学年によって差が出ないように、3年間を見据えた進路指導と	①生徒・保護者に対して、進路指導検討会を踏まえた面談や進路説明会を通じて有効な指導を行うことができた。56期生の難関国公立大学合格者数20名、国公立	①これまでの成果を踏まえた進路指導を実践することで、継続的に高い進路実績を上げることを目指す。また、グループ担当だけでなく学校と

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価（3月21日実施）		
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	③年間を見通した進路指導の充実を図る。 ②「科学と文化Ⅰ・Ⅱ」における探究活動と、ディベート活動を軸としたグローバル教育を、カリキュラムマネジメントの中核に据え、次代を担う人材に必要となる資質・能力の育成を目指す。	②科学と文化Ⅰ・Ⅱのブラッシュアップを図ると共に、持続可能な運営体制を構築する。また、各種グローバル研修について、計画的・効果的な情報発信を行うと共に内容の充実を図る。	る。	たか。	護者、生徒に対して進路説明会にて丁寧な情報提供を行った。出願指導検討会を実施し、参加した教員間で現状を把握し、指導に活用できた。 ②科学と文化の充実度に関する生徒向けアンケートにおいて肯定評価80%以上を達成できたか。また、各種グローバル研修実施後の生徒向けアンケートにおいて肯定評価85%以上を達成できたか。	生徒へ伝えていく。56期生の進路状況は結果を待つところだが、引き続き生徒の高い進路希望を引き出し支える指導を進める。 ②科学と文化について、3年生のアンケート結果では肯定評価が70%であった。また、各種グローバル研修後のレポート内容から、多くの生徒がプログラムを通して自分自身を成長させ満足していることがうかがえた。	生徒へ伝えていく。56期生の進路状況は結果を待つところだが、引き続き生徒の高い進路希望を引き出し支える指導を進める。 ②探究活動では生徒たちが興味・関心に応じた調査・研究ができるため、引き続き充実させた活動を通して肯定評価を伸ばしていく。グローバル関係では、魅力ある活動であることを全校生徒に周知し、参加人数を増やして拡充していく。	して引き続き取り組んでほしい。	大学合格者数137名となり、ともに目標を達成することができた。	して全職員がミスなく適切な進路指導に取り組む体制を充実させる。
		①生徒が活動する様子が伝わる広報活動を目指し、本校の魅力や特色を積極的に発信する広報活動を展開する。 ②保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との協働連携を促進し、教育活動の充実を図る。	①本校の教育活動について、中学生や保護者や地域の方に向けて、より広くかつ迅速な情報発信に取り組む。 ②授業や学校行事において、行政機関、大学研究機関、地域、民間等と連携した教育活動の充実を図る。	①生徒の活動の様子をより詳しくかつ迅速に発信するため、情報収集やホームページ更新作業の仕組みを改善し、組織的な取組みを推進する。 ②授業や学校行事における外部機関や講師の活用状況や、学校評価アンケートの肯定評価が80%以上を達成できたか。	①学校説明会等におけるアンケートで、ホームページが適切に情報を伝えているという肯定評価80%以上を達成できたか。 ②キャリアアップ講座をはじめ、進路に関する東大in柏陽、東工大in柏陽を実施した。また、キャリア教育に対する学校評価アンケートの肯定評価は86%であった。	①ホームページからの情報発信についてのアンケート結果は、第1回学校説明会では肯定評価が90%、第2回学校説明会では肯定評価が91%であったことから、学校の情報を十分に発信することができた。 ②キャリアアップ講座については、参加延べ人数が100名程度となっている。より魅力的な講座の設定、周知方法を検討していく。	①今年度から、学校行事については関係グループに作成依頼をしている。そのため、写真入りの原稿が速く作成され、期間を置かずにホームページが更新されている。今後もこの体制を継続して柏陽高校の取組を紹介していく。 ②キャリアアップ講座については、参加延べ人数が100名程度となっている。より魅力的な講座の設定、周知方法を検討していく。	①情報発信をこれからも続けて、柏陽高校の取組や行事を紹介してほしい。 ②地域の連携として、地域の方々を柏陽高校に呼んでほしい。また、地域に目を向けられるように、地域との協働のあとにはフィードバックをもらうとよい。	①ホームページ上で情報発信が十分できている。今後は過去の情報を削除や整理し、見やすくわかりやすいページづくりを心掛ける。 ②キャリアアップ講座や進路に関する講演会等、多くの生徒に参加してもらうことができた。より参加できる企画や日程を検討する。	①更新頻度は十分達成できている。学校行事等が行われた場合の紹介ページを日々空けないように更新できるようする。 ②地域との交流や連携は学校全体の取組になるため、各グループと調整しながら全職員で課題意識をもって対応していく。	
5	学校管理 学校運営	①教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む雰囲気を醸成し、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②各種会議を計画的に実施し、効率的な学校運営に取り組むとともに、安全安心な教育環境を整備する。	①教育環境の変化に迅速に対応し、教員同士の信頼関係を高め、協力する体制づくりに取り組むとともに、魅力と活気ある学校づくりに取り組む。 ②円滑で効率的な学校運営に取り組むとともに、安全安心な教育環境の整備及び、不祥事の防止を図る。	①職員相互の信頼関係を高めるとともに、尊重し合える職場づくりを形成するために、人権研修会や不祥事防止研修会を実施する。報告・連絡・相談を励行することで、風通しのよい職場環境を醸成する。 ②ICTの利活用を推進し、情報の共有化、校務の効率化を図る。地域と連携した防災対策を進め、不祥事防止研修会等により不祥事防止に取り組む。	①職員人権研修会等の実施回数と取組状況による検証はできたか。報告・連絡・相談を励行しているか。 ②ICTを導入して校務の効率化を図れたか。安全点検を実施した。防災訓練の実施状況、不祥事防止研修会等により不祥事防止に取り組む。	①本校のスクールソーシャルワーカーによる職員向け人権研修会、各グループ担当職員による不祥事防止研修会等を実施した。また、日頃から職員間で報告・連絡・相談が密に行われ、活気ある職場組織を作りあげた。 ②マグネットスクリーンの新たな補充など教室でのICT環境の整備も進められた。また、Teamsのチャット機能などを活用した情報共有は、より業務効率化を進めることができた。年度当初に計画した3回の防災訓練と全12回の不祥事防止研修会を実施した。	①各グループ担当による不祥事防止研修会は、職員間における連帯や同僚性を育んでいく。また、人権意識等を高めているので、引き続き積極的に取り組んでいく。 ②今後は電子黒板の導入によるICTの更なる活用策を検討し、業務の効率化を図る。また、引き続き消防署だけでなく地元消防団の協力を得て、より効果的な防災訓練を実施する。さらに安全安心な教育環境を整備し、事故・不祥事の防止に取り組む。	①研修回数が多いことはとてもよい。今後も気を引き締めて努めてほしい。 ②ICTの利用については、力を入れてほしい。また、消防団員には高校生から入ることができ、社会に出てからでも入ることはできるので、参加を待っている。消防署としてもPRしていかなければならないと思っている。	①定期的に人権研修会および不祥事防止研修会を行うことで、職員の意識を高めるとともに、課題に対して前向きに取り組める職場環境が生まれている。 ②電子黒板の導入に向けて、業者プレゼンを設定し、次年度以降の業務効率化をさらに進展させるための活用策を検討した。防災訓練については、引き続き災害に対する意識啓発に取り組んでいく。	①研修会の効果を高めるために、講義型以外の取組も検討し、計画的に実施していく。 ②ICTを積極的に活用して、さらなる業務効率化を推進する。また、教科と連携したDIG訓練の実施や、地域と連携した防災訓練についても検討していく。	